

Economic Indicators

発表日:2021年4月30日(金)

鉱工業生産指数(2021年3月)

～1-3月期は3四半期連続の増産に。先行きは自動車の減産が下押しも、底堅い推移が続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
20	1月	▲1.2	▲2.6	1.1	▲3.3	1.8	3.6	0.3	9.9	▲2.2	0.3	2.2	▲4.6
	2月	▲0.4	▲5.8	0.4	▲5.4	▲1.4	1.5	▲1.8	9.7	▲2.0	▲6.0	0.3	▲6.4
	3月	▲2.5	▲5.4	▲4.8	▲6.5	0.7	2.8	6.6	13.5	▲5.2	▲9.3	▲3.5	▲6.6
	4月	▲10.3	▲15.5	▲10.3	▲17.0	0.0	2.6	13.3	29.7	0.0	▲8.1	▲13.8	▲20.1
	5月	▲10.5	▲27.0	▲9.8	▲27.5	▲2.4	▲0.3	9.4	43.5	▲5.5	▲21.5	▲4.5	▲25.7
	6月	4.9	▲18.4	6.9	▲16.7	▲1.8	▲3.3	▲8.1	23.9	4.5	▲9.0	6.9	▲15.4
	7月	6.9	▲15.9	5.3	▲16.8	▲1.3	▲4.7	▲7.6	18.5	▲0.8	▲14.1	7.8	▲11.5
	8月	2.0	▲14.0	2.3	▲14.3	▲0.9	▲5.6	▲2.4	13.9	▲3.8	▲21.0	1.3	▲10.8
	9月	3.7	▲9.1	3.8	▲9.6	▲1.0	▲5.7	▲4.2	7.6	2.2	▲20.5	3.4	▲4.7
	10月	2.1	▲3.4	2.2	▲3.3	▲1.0	▲8.1	▲3.5	▲0.4	3.0	▲0.6	1.4	▲0.1
	11月	0.7	▲4.1	0.9	▲4.1	▲1.2	▲9.1	▲1.0	▲1.0	3.7	5.7	▲1.3	▲5.6
	12月	▲0.2	▲2.9	▲0.6	▲3.2	0.6	▲8.4	0.1	▲2.5	▲1.1	▲5.4	▲0.3	▲2.7
21	1月	3.1	▲5.3	2.9	▲5.3	▲0.9	▲10.2	▲4.9	▲3.9	9.6	▲0.4	0.6	▲6.1
	2月	▲1.3	▲2.0	▲1.3	▲3.2	▲0.7	▲9.5	1.0	▲4.4	▲0.9	6.3	▲1.5	▲4.1
	3月	2.2	4.0	0.8	3.9	0.1	▲10.1	▲0.8	▲12.3	▲5.4	7.4	2.6	3.2
	4月	8.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5月	▲4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)21年4月、5月は、製造工業生産予測調査の数値

○自動車生産の反発により3月の生産指数は2か月ぶりに上昇。1-3月期は3四半期連続の増産に

経済産業省より発表された3月の鉱工業生産指数は前月比+2.2%と、経産省の補正試算値(同▲1.4%)や市場予測値(コンセンサス:同▲2.0%、レンジ:同▲3.9%~同+1.2%)に反し2か月ぶりの上昇となった。3月は年初から顕在化していた半導体不足や3月19日の大手半導体メーカーの工場火災の影響が懸念されていたものの、2月の福島県沖地震の影響で大幅減産となった自動車工業が反発したことなどから、生産指数全体は上昇に転じた。

内訳をみると、3月は自動車工業(前月比+7.5%)が4か月ぶりの増産となったほか、非鉄金属工業(同+7.0%)、化学工業(除医薬品)(同+4.1%)などが上昇に寄与した。一方、電気・情報通信機械工業(同▲4.9%)や汎用・業務用機械工業(同▲4.7%)などが低下に寄与している。電子部品・デバイス工業は同▲0.9%と低下したものの、世界的な半導体需要から高水準での推移が続いた。

四半期でみると、1-3月期の生産指数は前期比+3.0%の上昇となった。上昇ペースは20年10-12月期(同+5.7%)から鈍化したものの、資本財や半導体関連の生産がけん引役となり、3四半期連続での増産となった。内訳をみると、半導体不足や福島県沖地震の影響などから輸送用機械工業(同▲6.6%)が減産に転じた一方、国内外の設備投資動向の回復から生産用機械工業(同+13.8%)と大幅な増産となったほか、半導体等の電子部品・デバイス工業(同+9.7%)などが上昇に寄与した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で20年度の生産指数は前年度比▲9.5%の大幅減産となったものの、20年7-9月以降、世界経済の回復に伴い生産は堅調な持ち直しをみせた。

○先行きは自動車の減産が下押し圧力となるも、生産は底堅い推移が続く見込み。

同時に公表された製造工業生産予測指数では、4月が前月比+8.4%、5月が同▲4.3%となった。また、予測指数の上方バイアスを考慮した経済産業省の4月の補正試算値は同+4.6%となった。

4月の内訳をみると、生産用機械工業が同+37.9%、電気・情報通信機械工業が同+19.1%と大幅な増産が見込まれるほか、半導体等の電子部品・デバイス工業も同+14.8%と高い伸びとなるなど、9業種で増産が見込まれる。一方、輸送用機械工業が同▲4.9%と、半導体の供給不足の影響から4月は減産に転じる予想となった。

5月の内訳をみると、化学工業（同+1.1%）など3業種が4月から増産見込みも、輸送用機械工業（同▲9.9%）、生産用機械工業（同▲7.2%）など8業種が減産となることで、全体では4月から減産が見込まれている。

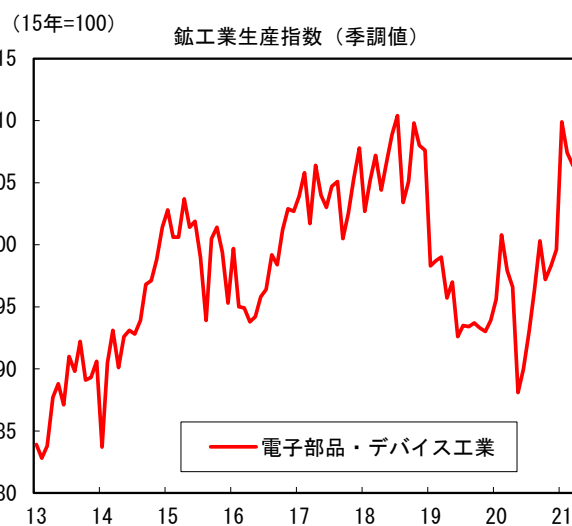
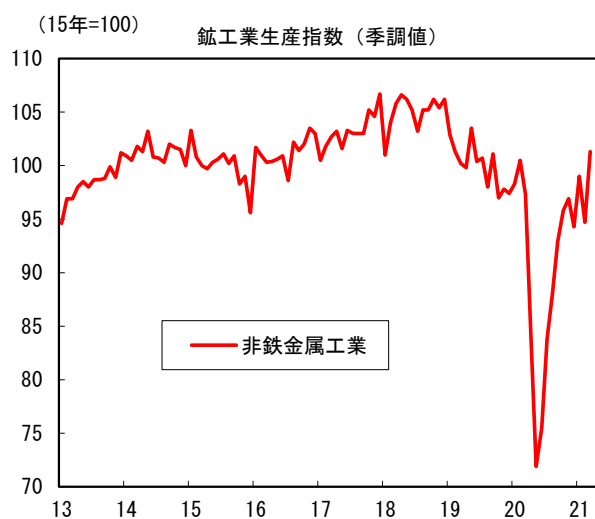
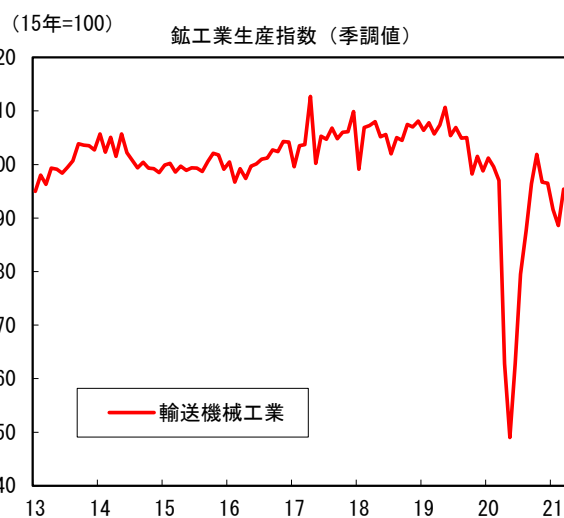
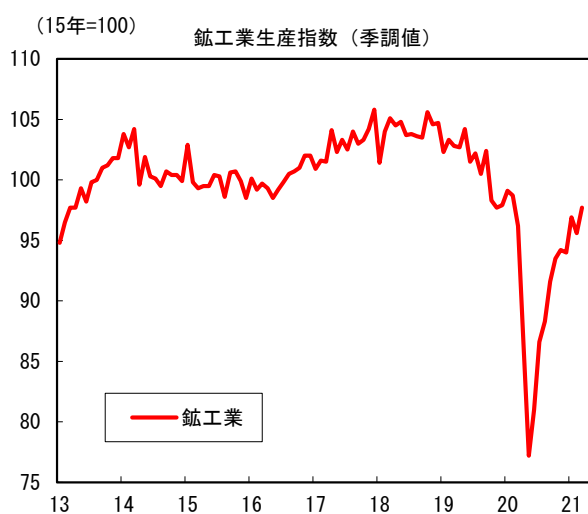
仮に4月の結果が経産省の補正試算値通りの結果となると、生産指数の水準は新型コロナウイルス感染拡大前の20年1月を大きく上回るものになる。半導体の供給不足による自動車の減産が下押しとなるも、資本財や半導体等の生産がけん引することで、生産は4月以降も底堅い推移が続く見込みだ。

先行きのリスクは引き続き半導体の供給不足となる。年初から顕在化していた半導体不足や3月19日の大手半導体メーカーの工場火災の影響を受け、一部の自動車メーカーは4、5月に減産を見込んでおり、6月以降の状況についても不透明な状況だ。また、3月の半導体メーカーの工場火災の状況については、生産能力は5月中には100%まで回復が見込まれるも、製品出荷が100%に回復するのは7月初め以降の見込みと、足もとでは3月末の想定よりやや後ろ倒しされている。出荷の遅れを代替生産がカバーすると見込まれるも、依然として不透明な状況は続いている。

○財別の動向

財別でみると、個人消費関連の3月の消費財出荷は前月比+2.6%と増加、耐久消費財出荷が+5.1%、非耐久消費財出荷が同+0.8%とともに増加した。3月は自動車工業の出荷が高い伸びとなったことが増加に寄与している。また、四半期でみると前期比▲0.1%と前期比で小幅な減少となった。1-3月期は一部地域を対象に緊急事態宣言が発令されたものの、財消費への影響は限定的だったとみられる。

設備投資関連の3月の資本財出荷（除く輸送用機械）は同▲5.4%と大きく減少した。製造業の設備投資動向が回復している一方で、感染防止策の影響を受けやすいサービス業を中心に非製造業の設備投資動向に弱い動きがみられている。また、四半期でみると前期比+7.6%と2四半期連続の増加となった。国内外での設備投資の回復から、資本財出荷（除く輸送用機器）は20年10-12月期（同+5.2%）に引き続き高い伸びとなった。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

